

氏名	Aさん	Bさん
学科(学部生)	日本文化学科	日本文化学科
所属ゼミ	増田ゼミ	松尾ゼミ
Q1 卒業論文のテーマ	鎌倉時代における水干の装い	宇和島藩の成立 江戸時代初期に成立した宇和島藩(現在の愛媛県宇和島市)を、領主伊達家の家制度の視点から成立の理由を研究
テーマを選んだ理由	【きっかけ】  【関心・意欲】 平安時代位の低い者たちが着用していた水干は、武家の台頭に伴い格が上がり、将軍が着用した記述も見られるが、鎌倉時代中期以降は直垂が武家服飾の中心となり、水干は着用されなくなる。公服としての着用期間が短い装束。  【発展】 着用者や着用場面をみていくことで、水干がどのような装束であったのか考究する。	【きっかけ・関心・意欲】 最初のテーマはべつのもの。「幕末の長州藩」。研究や史料は膨大、反面、複雑で偏った思考や最良な意見が多く、先行研究を絞り込むことさえ困難で、見通しを立てられず断念。  次のテーマとして、「幕末」「仙台」というキーワードから単純に「奥州列藩同盟」。興味がわかず。  宇和島伊達家への疑問・関心から研究の余地ありと判断。
Q2 作成スケジュール	3年 6月頃 テーマ設定・先行研究 秋学期 辞典類や古事類苑などをいり水干の概要を把握する 4年 春学期 はじめに・目次 10月頃 ゼミでの発表・半分提出 11月頃 ゼミ仮完成版提出 12月16日 提出  * 本格的に打ち込んだのは夏休みから	1年半  3年生の秋から自分の興味と、それに関連する論文を読み、研究者が使用する史料はどういったものがあるのかなどを半年かけて探る。 4年 4月 一度設定したテーマを変更。 論文を読みながら歴史を勉強、その論文の著者が挙げている史料を検索してリストにまとめる作業。 6月～8月の頃 章構成と導入の「はじめに」 9月 ゼミ合宿:教授や卒業生、院生からアドバイス 9月末～10月末 一章 11月～12月 二章、三章(苦戦)
Q3 卒業論文の書き方はどこで修得したか	ゼミにて、図書館の方のデータベースの使用法の講義 増田教授に論文の書き方の指導	指導教員 本文の細かな部分、例えば括弧の使い方や註釈の入れ方、史料引用の載せ方などは論文を読み進めて覚えた書き方
Q4 卒業論文を書くうえで、困難に感じたこと	語尾や言い回しが似通ってしまうこと。分かりやすく読みやすい文章を書くことが難しかった。論文などを読み、語尾であったり、語句や言い回しを参考にした。	論文を書くことは自分との闘い。テーマは友人と異なるので、行き詰っても気軽に意見を交わせる人がいない。教授には愚痴(文字数や時間への焦りや、就活とのせめぎ合いでささくれ立った気持ち)までは話せない。 頻りに友人と会い励まし合う。
卒業論文に取り組むときのポイント	早めに取り組むこと。スケジュール管理。 熱中することで楽しくなったので、楽しみながら書く。	「まとめる」こと。
Q5 参考文献の入手経路	吾妻鏡の完訳やその手引書など OPACで検索 その本の周辺をブラウジング	CiNii 指導教授推薦の雑誌
Q6 Q5で回答された方法を用いることのメリット	辞典に載っている文献は代表的なものなので、目を通しておいたほうが良い。 先行研究の参考文献を見ることで、自分が見つけられないような文献なども挙げられているため、自分の研究に関する参考文献を見つけることができる。	CiNiiは著者と掲載雑誌が分かりやすく、NDL-OPACのリンクもあり所蔵大学図書館も見出しやすかった。またPDF形式で本文を読むことが出来たりするので便利。
Q7 お薦めのデータベースやオンラインジャーナル	CiNii、マガジンプラスは先行研究を調べるために必須。 ジャパンナレッジは、国史大辞典や国語辞典など、有名な辞典を網羅することができる。	国文学研究資料館のデータベース、東大史料編纂所のデータベース
Q8 失敗・反省談		数えきれないくらい後悔。 一つの作業を進めるのに苦労して時間に追われ、内容が薄くなったこと。 時間がない、見つからない、まとまらない、進まないなどの失敗が総じて、研究し尽くせなかったこと
Q9 図書館への期待		レファレンスサービスをもっと積極的に利用すべきだった。利用促進を希望。